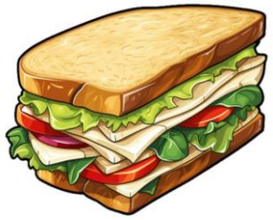
未来予想図（みらいよそうず）

寝屋川市立梅が丘小学校　　２０２３・８・２４

校長室通信　　No. １６

２学期とは・・・

２学期が始まりました。８月２２日（火）の始業式の時に話をしたように、「２学期」というのは、サンドイッチの中身にあたる大事な時期であり、そのサンドイッチの味の決め手となる重要な部分です。



パンにあたる１学期・３学期は、もちろん大事な時期ですが、それぞれに、「はじまり」「しめくくり」とう緊張感があって、なかなか、くさりにくいものです。しかし、中身にあたる２学期は、サンドイッチの中身がまっさきに、くさりはじめるのと同じように、いわゆる「中だるみ」をおこしやすい時期です。そして、中身がくさってしまったサンドイッチが、まったく食べられなくなってしまうのと同じように、「２学期」が、いいかげんなものになってしまうと、この一年間全体が、いいかげんなものになってしまいます。

また、これを義務教育の９年間（※小学校６年間と中学校３年間を合わせた９年間）で言いかえると、サンドイッチの中身にあたるのは、小学校４～６年生になります。小学校１～３年生の時期は、学校に入学して間もないこと、また中学校１～３年生の時期は、将来の自分の進む道を考えなければならないということで、ある程度の緊張感を持って学校生活を送ることになりますが、小学校４～６年生の時期は、少し学校生活への慣れもあり、生活面などにおいて、ゆるみがちになってしまう部分があります。

しかし、サンドイッチの中身が大切なのと同じように、本当に大事な時期というのは、小学校４～６年生の時期であり、この時期がいいかげんなものになってしまうと、義務教育９年間そのものが、いいかげんなものになってしまいます。さらに言えば、この梅が丘小学校、そしてまた、第４中学校区全体が、すばらしいものになるかどうかについては、４～６年生にかかっていると思っています。

これから、行事や学習に忙しくなると思いますが、ぜひとも、立派な中身を作って、自分自身を、そして、この梅が丘小学校・第４中学校区全体を、すばらしいサンドイッチに仕上げていきましょう。

一歩一歩積み重ねれば　どこまでも行ける・・・

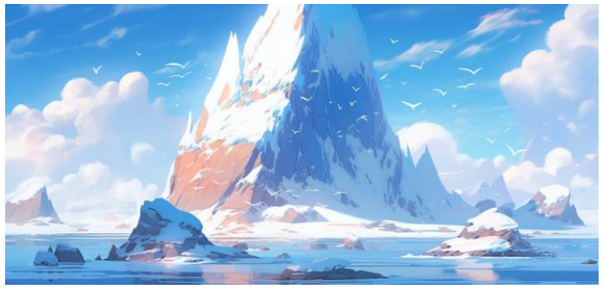
２０１８年１月に、「無補給・単独徒歩で、南極点到達　日本人初」というニュースが、テレビや新聞等で報道されていました。

（※「無補給・単独徒歩（むほきゅう　たんどくとほ）」というのは、だれの助けもかりることなく、たった一人で、歩いて挑戦する」という意味です。）

とてつもなく寒い気温の中、南極という氷の上を、距離にして 1126km の長い道のりを歩き続けることが、どれだけたいへんなことなのかは、想像することさえできませんが、冒険家の「荻田 泰永（おぎた やすなが）さん」は、その長い長い道のりを、50 日間かけて歩きつづけ、みごとに、日本人初の「南極点無補給単独徒歩到達」に成功されました。

普通は、飛行機のチャーター機によって、途中で食べ物など物資の補給を受けるのですが、荻田さんは、だれの助けを受けることもなく、気温が「マイナス 10 度～20 度」という寒さの中、食料や燃料、テントを積んだ、重さ約 100 キロのそりを、一人で引きながら歩き続けたそうです。

荻田さんがインタビューの中で、「南極点に到達できて、とてもうれしい。50 日間、目の前の一歩一歩の積み重ねだった。目の前の一歩一歩は小さいけれど、それを重ねていけば、１万キロにも２万キロにもなる。どんなたいへんな道であっても、一歩一歩重ねていけば、どこまでも行けるのだと思っています。」 と答えておられた言葉が印象的でした。

荻田さんの成功は、自分の力を信じ、目標に向かって一歩一歩、努力を積み重ねた結果だと思います。

梅が丘小学校のみんなも、これからの学校生活の中で、目の前のひとつひとつを大切にしながら、自分の目標に向かって一歩一歩がんばっていってくれることを、心から願っています。